

第2学年特別活動（学級活動）学習指導案

指導者 神尾大介

I 題材名 『1年生なかよし大きくせん』

II 題材の指導構想

1 学習指導要領に示されている指導目標及び内容

小学校学習指導要領解説「特別活動編」には、学級活動の目標について次のように示されている。

学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

本題材の主な目標は、『1年生なかよし大きくせん』を企画することで、相手の気持ちを自分なりに推測し、一層楽しんでもらえるようにするにはどうすべきかを考え実践することにより、よりよい人間関係を築こうとする実践的な態度を養うことである。

また、本題材の内容は、学級活動の内容（1）「学級や学校の生活づくり」のウ「学校における多様な集団の生活の向上」に位置付ける。『1年生なかよし大きくせん』によって、身近にいる自分たちよりも幼い人たちに対してどのように接することが大切なのかを考えたり、1年生とのかかわり方を経験したりすることができる。また、企画する際には、相手に楽しんでもらうためにどんなことを大切にすればよいかといった相手意識を培うこともできる。さらに、一人一人が協力して『1年生なかよし大きくせん』を企画し実践することから、学級集団のかかわりを深め、相手意識を醸成し、より望ましい集団に発展させていくことが期待できる。

2 題材について

＜題材について＞	＜題材の目標＞	＜目指す子どもの姿＞
<p>○ とらえさせたい題材の価値</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生とのかかわりを通して、身近にいる人に対する思いやりや親切の気持ちを大切にすることに気付かせ、よりよい人間関係を築きながら実践できるようにする。 <p>○ 子どもの視点からの価値</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生と仲良く楽しんでもらうためには、どんなことを大切にすればよいかといった相手意識を考えると、一人一人が協力しながら話し合い、実践することができる。 	<p>○ 『1年生なかよし大きくせん』を企画することで、相手の気持ちを自分なりに推測し、一層楽しんでもらえるようにするにはどうすべきかを考え実践することにより、よりよい人間関係を築こうとする実践的な態度を養う。</p> <p>【話し合い活動（計画）】</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなで話し合う問題に関心をもち、話し合いの準備に進んで取り組もうとしている。（関心・意欲・態度） 議題について自分の考えをもち、話し合いの順序など簡単な計画について考え、準備している。（思考・判断・実践） 話し合い活動の準備の仕方や基本的な進め方を理解している。（知識・理解） <p>【話し合い活動（話し合い）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 『1年生なかよし大きくせん』の取り組みについて、自分の考えをもって話し合いに進んで取り組もうとしている。（関心・意欲・態度） 『1年生なかよし大きくせん』の取り組みは何かを考え、自分の考えを最後まで発表したり、友達の考えを聞いたりして、よりよい考えをつくり出そうと話し合っている。（思考・判断・実践） 指名を受けて意見を言うことや決定の仕方など、基本的な話し合いの進め方を理解している。（知識・理解） <p>【集会活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 決定したことについて、進んで準備や計画に取り組もうとしている。（関心・意欲・態度） 決定したことや役割を考え、仲良く助け合って実践している。（思考・判断・実践） 決定したことについて、みんなで実践することの大切さや方法について理解している。（知識・理解） 	<p>○ 関心・意欲・態度の面から</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをもって話し合いに進んで参加し、決まったことをみんなで仲良く取り組もうとすること。 <p>○ 思考・判断・実践の面から</p> <ul style="list-style-type: none"> 集団にとってよりよい考えをつくり出すために、進んで自分の考えを表現するとともに、友達の考えのよさなど互いに理解し認め合いながら折り合いを付けられるように話し合うこと。 <p>○ 知識・理解の面から</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な話し合いの進め方や自分の役割を理解していること。

＜復興教育（3つの教育的価値）との関連＞

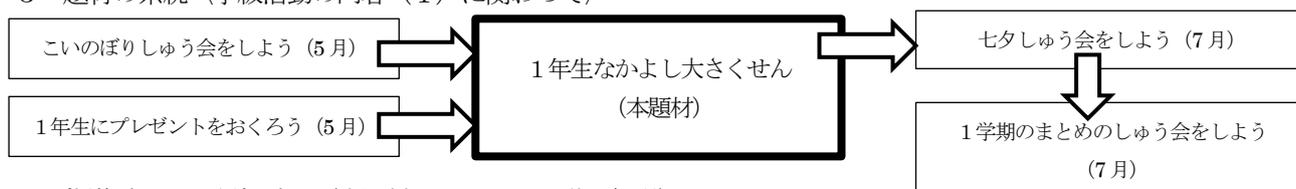
1 生命や心について【いきる】 「③【価値ある自分】」とのかかわり

話し合い活動の中で、自分の考えが友達に共感的に認められたり、板書に位置付けられたりするなど、価値付けられたときに自己有用感を感じる。

2 人や地域について【かかわる】 「⑨【仲間や地域の人々とのつながり】」とのかかわり

学級集団の中で、活動目標や友達とのかかわりを通して、「1年生となかよくなりたい」という提案理由をもとに、その問題の解決にあたって、自分と友達の考えを認め合いながら比較検討し、集団としてよりよい考えをつくり上げたとき、集団の所属感や仲間の大切さを感じる。

3 題材の系統〈学級活動の内容（1）に関わって〉



4 指導計画及び評価計画（本題材にかかわる活動の経過）

月日	時間	参加児童	主な活動内容と評価基準	活動目標の明確化（手立て①）と話し合いの可視化（手立て②）のポイントとその内容	指導上の留意点
6/3	学級活動	全員	○ 6月の学級活動の計画を立てる。（議題ポストを開ける。）		・ 学級のみんなが楽しくなることであるか、学級全体が高まることであるかという観点で議題を選定させる。
6/6	帰りの会	全員	○ 議題を決定する。 『1年生なかよし大さくせん』をしよう。	・ 1年生とのこれまでの活動を振り返らせる。（手立て①）	・ こいのぼり集会やアサガオのお世話の仕方での1年生とのかわりから、さらに仲良くなるために『1年生なかよし大さくせん』を行いたいという理由を補足する。
6/10	放課後	実行委員	○ 集会の目標と内容を検討する。 ○ プログラムの原案を検討する。 ○ 話し合いの柱の原案を検討する。 1年生と仲良くなるためには、どんな活動をすればよいか。		・ 全員が話し合う必要のあるものについて気付かせる。
6/11	帰りの会	全員	○ プログラムを決定する。 ○ 話し合いの柱を決定する。		・ 実行委員会が原案提示し、それに対して話し合いを行う。
6/14	朝学習	実行委員	○ 1年生に集会をしたい旨を伝えるに行く。 ○ 1年生が2年生としたい活動のアンケートを依頼する。		・ 「もっと1年生と仲良くなりたい」という学級の思いを、実行委員が代表で伝えられるようにする。 ・ 1年生が2年生とどんなことをしたいのか事前に把握することで、1年生の実態をみんなで確認させる。
	放課後	実行委員	○ アンケートの集計をする。		・ アンケート結果をまとめ、みんなに報告できるようにする。
6/18	学級活動	全員	○ アンケートの結果を発表する。 ○ 話し合い内容について確認する。	・ 議題に対する一人一人の思いや願いを明確にする学級会カードを活用する。（手立て①）	・ アンケート結果から、1年生が2年生としたい活動内容をいくつか絞り、そこから子どもたちに選択させるようにする。 ・ 学級会カードに自分の考えを記入させる。
6/19	国語	全員	○ 1年生に招待状を書く。		・ 相手意識をもたせた招待状を書かせる。
6/20	道徳	全員	○ 相手の気持ちを考える。		・ 「こうえんのおにごっこ」を通して、相手の気持ちを考えて、親切にしようとする心情を育てる。
	帰りの会 放課後	全員 進行係	○ 本時の学級会において、みんなで解決していく問題であること確認する。 ○ 係の打ち合わせをする。		・ 実行委員が事前に学級会の話し合いの柱・提案理由・話し合いのゴールを全員に共通理解させるようにする。 ・ 実際の話し合いの場面を想定しながら具体的に指導する。（進行・板書の確認）
6/21	（本時）学級活動	全員	○ 『1年生なかよし大さくせん』を行うためには、どんな活動をすればよいか話し合う。 〈考〉『1年生なかよし大さくせん』の取り組みは何かを考え、自分の考えを最後まで発表したり、友達の考えを聞いたりして、よりよい考えをつくり出そうと話し合っている。	・ 話し合いの切実感を高めるための資料を提示する。（手立て①） ・ 子どもの考えを、「よい点」「心配な点」「アイディア」の3つの視点で板書する。（手立て②） ・ 活動目標や提案理由に立ち返りながら、話し合えるような助言をする。（手立て②）	・ 教師の支援を受けながら、可能な限り自分たちで決定できるようにする。
6/24	放課後	各係	○ 会を進行させるための練習を行う。		・ 1年生を意識して、1年生に分かるように進めさせる。

6/26	学級活動	全員	○ 『1年生なかよし大きくせん』を行う。		・ 決まったことや準備してきたことを自分たちの力できるように支援する。
	帰りの会	全員	○ 『1年生なかよし大きくせん』の振り返りを書く。	・ 活動の目的を達成するために話し合いで決まったことは妥当であったか、個々の思いや願いは実践において活かされたのかどうか振り返らせる。(手立て①)	

Ⅲ 本時の指導構想

1 本時の指導

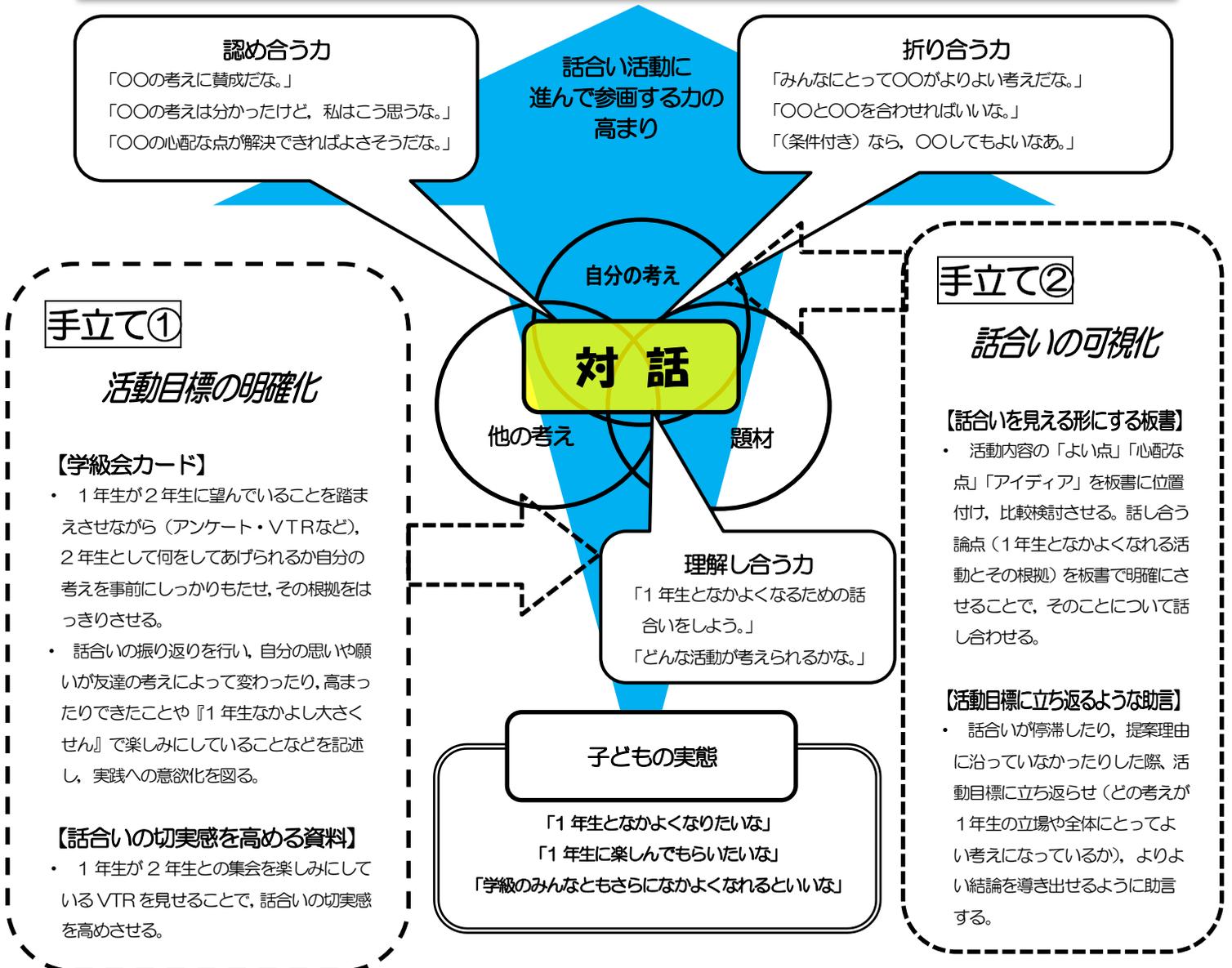
◆ 子ども像

話し合い活動に進んで参画する子どもが育つ授業

自分にとって集団にとってもよりよい考えをつくり出すために、進んで自分の考えを表現するとともに、友達の考えのよさなど互いに理解し合いながら、意欲的に話し合い活動に参加する子ども

◆ 授業像

話し合い活動の過程において、みんなで話し合う議題や提案理由などの活動目標を理解し合い、友達の考えを認め合いながら折り合いを付けられるようにするために、活動目標に立ち返りながら話し合わせたり、考えを見える形にした板書を位置付けたりしてよりよい集団決定ができるような授業



認め合う力

「OOの考えに賛成だな。」
「OOの考えは分かったけど、私はこう思うな。」
「OOの心配な点が解決できればよさそうだな。」

折り合う力

「みんなにとってOOがよりよい考えだな。」
「OOとOOを合わせればいいな。」
「(条件付き)なら、OOしてもいいなあ。」

話し合い活動に
進んで参画する力の
高まり

自分の考え

対話

他の考え

題材

理解し合う力

「1年生となかよくなるための話し合いをしよう。」
「どんな活動が考えられるかな。」

子どもの実態

「1年生となかよくなりたいな」
「1年生に楽しんでもらいたいな」
「学級のみならずともさらになかよくなれるといいな」

手立て①

活動目標の明確化

【学級会カード】

- ・ 1年生が2年生に望んでいることを踏まえさせながら(アンケート・VTRなど)、2年生として何をしてあげられるか自分の考えを事前にしっかりもたせ、その根拠をはっきりさせる。
- ・ 話し合いの振り返りを行い、自分の思いや願いが友達の考えによって変わったり、高まったりできたことや『1年生なかよし大きくせん』で楽しみにしていることなどを記述し、実践への意欲化を図る。

【話し合いの切実感を高める資料】

- ・ 1年生が2年生との集会を楽しみにしているVTRを見せることで、話し合いの切実感を高めさせる。

手立て②

話し合いの可視化

【話し合いを見える形にする板書】

- ・ 活動内容の「よい点」「心配な点」「アイデア」を板書に位置付け、比較検討させる。話し合う論点(1年生となかよくなる活動とその根拠)を板書で明確にさせることで、そのことについて話し合わせる。

【活動目標に立ち返るような助言】

- ・ 話し合いが停滞したり、提案理由に沿っていなかったりした際、活動目標に立ち返らせ(どの考えが1年生の立場や全体にとってよい考えになっているか)、よりよい結論を導き出せるように助言する。

2 目標

『1年生なかよし大きくせん』の内容について、1年生のことを考えながら話し合い、決定することができる。

3 展開

活動の流れ	子どもの活動	時間	研究にかかる具体的な手立てや支援	留意点
1 始めの言葉	○ 司会の合図で話し合いを始める。	1	【手立て①】 活動目標の明確化 ○ 学級会カードに自分の考えを書かせ、議題に対する思いや願いを明確にさせ、話し合う必要感をもたせる。	<ul style="list-style-type: none"> 座席表を用いて事前に一人一人の考えを把握し、話し合いの活性化を図る。 話し合いのめあてを、「友だちの考えを聞き、自分の考えをしっかりと発表しよう。」とし、話し合いに向けての意欲を高めさせる。
2 係の紹介	○ 司会が係の紹介を行う。	1		
3 話し合いのめあての確認	○ 話し合いのめあてを確認する。	1		
4 議題の確認	○ 議題を確認する。 『1年生なかよし大きくせん』をしよう。	1		
5 提案理由の説明	○ 提案者が「1年生となかよくする集会を行いたい」という内容のことを話す。 ○ 1年生の願いについて知る。	6	【手立て①】 活動目標の明確化 ○ 1年生が集会を楽しみにしているというVTRを見て、話し合いに対する切実感をもたせる。 【手立て②】 話し合いの可視化 ○ 出された考えを「よい点」「心配な点」の視点から比較検討しやすそうな板書を位置付ける。 ○ 今何について話し合われているのかを、板書を通して、矢印を用いたり、考えが記されている短冊カードを移動したりする。 ○ 板書に位置付けられた「心配な点」について解決できるようなアイデアを考えさせるようにしていく。 ○ 集団決定の際には、その方法を確認したり、提案理由を振り返ったりしてよりよい結論が出せるように助言する。	<ul style="list-style-type: none"> 提案理由の説明の中で、話し合いが行われる経緯について説明させる。 教師からの補足説明の中で、話し合い内容の焦点化を図る。 学級会カードをもとに、事前に一人一人の考えを短冊カードに記しておき、子どもたちから発表されたら黒板に提示する。 考えが変わった子どもには、その理由を話すように促し、考えの深まりを認める。 発言意欲が低い子どもにも指名しながら発言を促し、その努力を称揚する。
6 話し合い	○ 自分の考えとその理由を出し合う。 ○ お互いの考えの「よい点」や「心配な点」の視点から比較検討し、考えを分類・整理しながら話し合う。 ○ 友達の見解から、自分の考えを修正・統合・発展させて話し合う。 ○ お互いの考えの相違点を理解し合い、よりよい集団決定をする。 【話し合いの柱】 ○ どんな活動（遊び）をすればよいか。 ・ 鬼ごっこ ・ ドッジボール ・ けいどろ ・ フルーツバスケット ・ 歌 ・ 名刺交換 など	25		
7 決まったことの確認	○ 書記が発表する。	1	【手立て①】 活動目標の明確化 ○ 話し合いや活動に対しての意識の持続化を図るために、次の観点で振り返りをさせる。 ・ 取り組みに向けてがんばりたいこと ・ 話し合いについて思ったことや考えたこと ・ 友だちのよいところ	<ul style="list-style-type: none"> 決まったことを短く発表させる。 助言の中で、考え方のよさや参加態度などを賞賛し、話し合ったことの満足感や実践への期待感を高める。
8 今日の話合いの振り返り	○ 自分の考えが話し合いを経てどのように変わったか発表する。	5		
9 先生から	○ 教師の話聞く。	3		
10 終わりの言葉	○ 司会が話す。	1		

〈予想される子どもの反応〉

- ・ タッチされたら、自分の名前を鬼に紹介すると、顔と名前を覚えられるよ。
- ・ 1年生が取れるようなボールを投げてあげたいな。
- ・ 1年生が捕まらないように助けてあげよう。
- ・ 1年生でも知っている歌と一緒に歌いたいな。
- ・ 名前を知ってもらうために名刺を作りたいな。